

1. 事業の位置付け

事務事業名	遊歩道・自転車道ネットワーク推進事業		
事業担当	経済部 商業観光課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民・観光客	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
安心、安全、清潔な観光コースが整備され、多くの人に利用されています。		市民の余暇活動などのニーズに対応するため、観光マップの活用やモニターツアーの実施などにより、遊歩道・自転車道の利用を促進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	モニターツアーの開催				単位	回
	説明・算定式	(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	2		
	実績	—	—	—	2		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	事業進捗率				単位	人
	説明・算定式	ツアー参加者数(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	30		
	実績	—	—	—	30		
成果指標②	指標名	事業進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19:(パンフレット作成等)40%、H20:(検討会立上げ)20%、H21:(コース調査等)40% (H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	40	60	100	—		
	実績	40	50	80	—		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民の余暇活動や健康づくりを推進するため、安全で快適に市内を巡る遊歩道・自転車道の利用を促進は必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目されており、遊歩道・自転車道の利用を促進有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目され、やすらぎ回廊を利用することによって市民に市内の名所などを知ってもらうことは妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	的確に市民の身近な観光ニーズを把握し、効率的にそのニーズ応えていく検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		観光マップ作成・配布、 コース現況調査	検討会の立ち上げ、 コース調査	マップ作成・配布、コー ス調査	観光マップの活用等に よる利用の促進・モニ ターツアーの実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.55	0.55	0.30	0.35
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		4,616	4,616	2,507	2,891
フルコスト (A+B)		4,616	4,616	2,507	2,891

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	②:若干遅れている	②:若干遅れている 新ルートを選定よりも、現 行ルートの周知、活用を最 優先とし、検討会を実施し なかったため	①:予定どおり -
	主な取組と成果	平成19年度で湘南ひらつ か観光マップをリニューアル、70,000部作成し、 本庁、分庁舎、公民館など各公共施設及び、観光 キャンペーン、各イベン ト会場で配布した。ホーム ページの観光ナビゲ ーターでコース検索、巡回 ができ、初めての方でも 分かりやすくなった。潮 風とうるおいロード・水 と光と緑の散歩道のコー ス案内を別刷りで10,000 部作成した。これらのこ とから、遊歩道・自転車 道の利用を促進した。	前年度と同様に湘南ひら つか観光マップやホーム ページの観光ナビゲ ーター等でやすらぎ回廊な どをPRして、遊歩道・自 転車道の利用を促進しま した。また、遊歩道・自 転車道の利用促進の検討 会を立上げる予定であっ たが、体験型のニーズが 高いとの観光アンケート 結果等に基づき、試験的 にやすらぎ回廊を利用し た工場見学や農業体験の ハイキングツアー2回実 施しました。	体験型のニーズが高いと の観光アンケート結果等 に基づき、前年に引き続 いたモニターハイキング ツアーの中に節節削り体 験などを組み込んで実施 しました。また、湘南ひ らつか観光マップ(平成 21年度に改定を実施)や ホームページの観光ナビ ゲーター等でやすらぎ回 廊をPRすることで、遊 歩道・自転車道の利用を 促進しました。	体験型のニーズが高いと の観光アンケート結果に 基づき、新たな観光資源 の発掘と併せて、干物づ くりや釜揚げシラス体験 を取り入れたモニターハ イキングを実施した他、 やすらぎ回廊や花アグリ を活用したモニターハ イキングも実施しました。 また、観光マップやホ ムページ等でやすらぎ回 廊をPRすることで、遊 歩道・自転車道の利用を 促進しました。なお、サ イクルフェスタでファミ リーサイクリングをベル マーレと共催で企画しま したが、東日本大震災の 影響で中止しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		多様化する余暇活動の中 で、自然とのふれあいや 健康の増進が注目され、 やすらぎ回廊のPRは重 要と考える。今後は市民 からの情報を受ける体制 も整えながら、検証し、 インフラ整備も考慮する 中で、市民に潤いのある 余暇活動を提供できると 考える。	多様化する余暇活動の中 で、自然とのふれあいや 健康の増進が注目され、 やすらぎ回廊のPRは重 要と考えています。さら に、今後は的確に市民の 身近な観光ニーズを把握 し、やすらぎ回廊をから めた観光の推進をしてい くことが必要です。	余暇活動の中で、自然と のふれあいや健康の増進 が注目され、やすらぎ回 廊のPRは重要と考 えていますが、市民への浸透 は十分でない状況です。 今後は的確に市民の身近 な観光ニーズを把握し、 やすらぎ回廊をからめた 観光の推進をしていくこ とが必要で す。	余暇活動の中で、自然と のふれあいや健康の増進 が注目され、やすらぎ回 廊のPRは重要と考 えていますが、市民への浸透 は十分でない状況です。 今後も、やすらぎ回廊を 活用した観光の推進をし ていくことが必要で す。また、自転車を活用 したモニターサイクリン グ等を実施し、市民ニ ーズを把握していくこ とも必要 だと考えています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公園整備事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：自治会など】		
目的・目標		事業の概要	
市民が快適でやすらぎを感じられる、みどり豊かな魅力ある公園が充実しています。		市民が潤いとやすらぎの場を享受し、歴史・文化・スポーツに触れ合う機会を増やすため、住区基幹公園の整備を進めます。また、施設の老朽化が進んでいる公園については、再整備を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
成果指標①	指標名	公園整備進捗率				単位 %
	説明・算定式	平成24年度までの指数累計に対する当該年度までの指数類型の率。公園整備：7、公園再整備：3、安心・安全支援事業：1(H22年度から設定)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	— —	— —	— —	55 55	
成果指標②	指標名	3年間の公園整備進捗率				単位 %
	説明・算定式	H19：ワークショップ開催20%、H20：八幡山・高麗山公園再整備43%、H21：文化財調査・高麗山公園再整備37%(H21年度まで評価)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	20 20	63 63	100 100	— —	
成果指標③	指標名	整備又は再整備した公園の数				単位 箇所
	説明・算定式	(H21年度まで評価)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	— —	2 2	1 1	— —	

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	公園への多様化する市民ニーズにこたえるために、幅広い参加者からの意見を取り込む手法は必要性が高いと思われます。	● 高 ○ 低
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	市民が公園作りの段階から参加することによって、公園への愛着を持つことが期待され、その後の公園行政への協力も得られることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	管理運営のワークショップを行うことによって、公園維持管理運営を市民と行政が協働で行っていくことから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	公園作りだけでなく、管理運営までのワークショップに発展させて、市民と行政の役割を決め、協働することによって、効率の良い管理を行うことができます。	○ 高 ● 中 ○ 低

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		ワークショップ開催	文化財発掘調査、八幡山・高麗山公園再整備	文化財発掘調査、高麗山公園再整備	塚越公園整備、高麗山公園再整備、街区公園再整備
財源内訳	国庫支出金	0	72,720	62,180	51,499
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	71,000	58,000	32,600
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	62,234	23,757	14,302
事業費 (A)		0	205,954	143,937	98,401
執行率 (%)		0.00	89.39	88.63	53.33
内訳	職員 (人)	1.60	1.60	1.90	1.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		13,426	13,426	15,877	15,693
フルコスト (A+B)		13,426	219,380	159,814	114,094

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	桜ヶ丘公園整備ワークショップ4回、桜ヶ丘管理運営ワークショップ7回、塚越公園整備ワークショップ3回を実施し、案をまとめた。	塚越公園整備ワークショップ2回を実施し、案をまとめた。	塚越公園整備に向け埋蔵文化財の調査を行いました。高麗山公園(湘南平)の桜の補植を実施しました。	塚越公園の整備を行いました。高麗山公園(湘南平)の桜の補植を実施しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行っていききたい。	地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行って行きます。	地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行って行きます。	地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行って行きます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	馬入花畑整備事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	
委託、協働	【委託：○3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：馬入花畑の会】		
目的・目標		事業の概要	
馬入の花畑「馬入・光と風の花つつみ」が、市民に愛され、魅力ある花畑になっています。		馬入の花畑「馬入・光と風の花つつみ」が愛され、魅力ある花畑とするため、市民との協働による維持管理を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2	2	2	2		
	実績	2	2	2	2		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	イベント時来場者数				単位	人/回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	8500	9000	9500	9600		
	実績	9000	9000	4100	11000		
成果指標②	指標名	年間ボランティア参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	600	600	610	620		
	実績	809	590	543	620		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	季節ごとの花が咲く花畑は市民の憩いの場として高い関心が寄せられています。約3haの花畑をボランティア組織だけで維持管理することは難しいため、市の関与の必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	花の生育は暑さや台風など自然環境に左右されるものの、イベント来場者は増加傾向にあり、市民満足度は高いものがあります。この事業を継続することによって、観光資源としての有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	河川敷の不法投棄対策を発端として本事業が行われましたが、今後は観光資源としての充実を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	ボランティア組織の拡大や企業参加等の拡大を図っていく必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		各種イベントの開催・区画の見直し	各種イベントの開催・園路整備	各種イベントの開催・あずまやの検討	各種イベントの開催、あずまやの検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	15,968	14,814	16,348	13,638
事業費 (A)		15,968	14,814	16,348	13,638
執行率 (%)		106.45	98.76	108.99	95.80
内訳	職員 (人)	0.98	0.98	0.98	0.94
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		8,224	8,224	8,189	7,764
フルコスト (A+B)		24,192	23,038	24,537	21,402

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
	主な取組と成果	イベントについては、春にはポピーの摘み取り秋にはコスモスの摘み取りを行いマスコミにも大きく取り上げられ認知度も上がり来場者数も増えた。また、ボランティア活動に関しては、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきている。	イベントについては、春にはポピーの摘み取り、秋にはコスモスの摘み取りを行い、マスコミにも大きく取り上げられるなど、認知度も上がり来場者数も増えました。また、ボランティア活動に関しては、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきています。	イベントについては、春はポピー、秋はコスモスの摘み取りを行い、マスコミにも大きく取り上げられるなど知名度も上がってきました。残念ながら秋のコスモスは台風被害のため、花の状況が悪く来場者は減少してしまいました。また、ボランティア活動については、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきています。	夏の猛暑や豪雨など天候不順に見舞われたものの、春は菜の花、芝桜の開花に始まり、5月のポピー摘み取りイベント、10月のコスモスの摘み取りイベントを行い、マスコミに大きく取り上げられ話題を提供できました。また、ボランティア団体の「馬入花畑の会」は活動の功績を認められ、国土交通大臣表彰を受賞しました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	C:十分に成果をあげることができなかった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		広大な面積を維持管理していくためには、市費の投入が必要であるが、ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、市費の投入を抑えていく必要がある。	広大な面積を維持管理していくためには、市費の投入が必要と思われますが、ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、市費の投入を抑えていく必要があります。	「魅せる花畑」を目指しを維持管理していくためには、土壌改良や開花時期を考慮した植え付けなど手法の検討が必要と思われます。ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、管理経費を抑えていく必要があります。	「魅せる花畑」を目指しを維持管理していくためには、土壌改良や開花時期調整など手法の検討が必要と思われます。また、ボランティア組織の拡充も課題です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	地籍調査(官民境界確定)事業		
事業担当	土木部 土木調整課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	国土調査法、測量法		
対象・受益者	市民、庁内	事業期間	2007 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
地籍調査を行うことにより、土地情報の明確化、共有化、公共事業の効率化及び災害復旧の迅速化が図られています。また、電子図面(ベクターデータ)に替わることで、図面更新・情報発信などが容易に行われています。		官地(道路や水路)と民地との境界を確定するため、地権者と立会い境界確定図を世界測地系座標で作成します。また、庁内GISを利用した境界確定図の閲覧も行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	測量委託数				単位	件
	説明・算定式	平成19年度は国の先行調査の数値(目標値・実績値の単位:件)であり、平成20年度から市の事業としての数値					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	18	4	4	3		
	実績	19	3	4	4		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	世界測地系へ移行した面積率				単位	%
	説明・算定式	世界測地系へ移行した区域面積÷67.88km ² ×100。H21まで:8.77km ² 、H22:3.00km ² 、H23:3.00km ² 、H24:3.00km ² (目標値・実績値の単位:%)(累積値)(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	17		
	実績	—	—	—	17		
成果指標②	指標名	世界測地系へ移行した面積率				単位	%
	説明・算定式	世界測地系へ移行した区域面積÷67.88km ² ×100 H19:— H20:4.45km ² H21:4.00km ² H22:4.12km ² H23:4.12km ² H24:4.12km ² (目標値・実績値の単位:%)(累積値)(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	4	12	—		
	実績	—	7	13	—		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	DID地区においては登記の際に世界測地系での境界確定図が必要となるため市民ニーズ、市の関与の必要性があります。22年度は3km ² (累計で市内全域の17%)について実施し、予定どおりの達成率となっております。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	公共工事や用地買収及び維持管理等の上位施策を行うために必須です。世界測地系の境界確定面積が増加することにより土地情報の共有化・明確化ができ市民満足度が向上します。継続により確定面積が増加します。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本事業は国土調査法、測量法などで規定されています。また本事業は国庫負担金事業(国50%県25%)です。人員は境界立会いに2名、窓口2名、庶務に1名最低必要で、会議・出張等を考慮すると妥当です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	国の事業である土地活用促進事業を活用し本事業の先行調査を行いました。さらに国庫負担金の活用により市費のコストを削減しています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	45,652	43,725	24,120
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	15,646	15,051	9,502
事業費 (A)		0	61,298	58,776	33,622
執行率 (%)		0.00	76.62	73.47	99.33
内訳	職員 (人)	1.55	1.55	1.40	1.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		13,007	13,007	11,699	11,563
フルコスト (A+B)		13,007	74,305	70,475	45,185

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
		-	-	-	-
主な取組と成果		平成19年度は本事業の調査のため、19件の測量委託を国の事業で行った。20年度以降は調査資料を基にして市費を用いて境界確定図を世界測地系座標のものへ移行していく。	平成20年度は本事業の先行調査のため14件の測量委託を国の事業で行い、DID地区全域において先行調査が終了しました。同時に、先行調査の結果を元に、予定では4件の測量委託を発注するところ3件で済み、かつ面積は予定では4%のところ7%について境界確定図の世界測地系への移行が終了しました。	現在のところ、世界測地系への移行面積が8.77平方キロで市域全体の13%について完了しました。予定をやや上回るペースで進行しています。	現在のところ、世界測地系への移行面積が11.77平方キロで市域全体の17%について完了しました。単年度ではペースダウンしましたが、3ヶ年実績としては予定どおり進行しています。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		平成19年度に行った国の事業である土地活用促進事業は市街地の現存する境界標を測量している。本年度からその成果と市で保存している境界確定図の誤差の解消を進めていく。	平成19年度から行っている国の事業である土地活用促進事業は市街地の現存する境界標を測量しており、20年度でDID地区全域において先行調査が終了しました。その成果と市で保存している境界確定図の誤差の解消を順次進めていきます。	平成21年度までは予定を上回るペースで事業が進んでおりますが、22年度は国県の負担金が大幅に削減され、23年度以降も不透明なことから、事業進行はペースダウンするものと思われます。	平成21年度までは予定を上回るペースで事業が進んでおりましたが、22年度は国県の負担金が大幅に削減されたことで、単年度としてはペースダウンしました。今後も国県の負担金の見通しは不透明ですが、市民の財産及び市の財産を管理するためにも、着実に進める必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	違反屋外広告物除却事業		
事業担当	土木部 土木調整課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 ○企業 NPO その他】【協働： 除去ボランティア、自治会等】		
	目的・目標		事業の概要
除却協力員による、違法なはり紙や立看板などの撤去により、安心・安全な道路環境に寄与しています。		まちの美観を保つため、道路上のはり紙や立看板などの違反屋外広告物を、商店会・自治会・PTAなどによる協力員と協働で除却活動を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	除却協力員活動回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	80	90	60	50		
	実績	57	49	46	33		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	除却協力団体数				単位	団体
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	15	16	15	13		
	実績	13	13	12	12		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	違反屋外広告物の放置は、美観を損ねるだけでなく、青少年への影響も憂慮されます。また、違反屋外広告物の撤去・除却は、市が委嘱した協力員のみが出来るため、市の関与は大きいです。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	事業を継続して実施することにより、違反行為の抑制と、地域の安全意識の向上にも繋がります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	まちの美観を保つため、道路上のはり紙や、立看板等の違反屋外広告物を商店街、自治会、PTA等の協力員と協働で除却活動を行います。また、一部業者に委託を行っています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	除却協力員を通じ、市民が率先して活動を実施する契機とします。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	2,892	1,501
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	3,525	3,304	0	0
事業費 (A)		3,525	3,304	2,892	1,501
執行率 (%)		83.81	78.22	68.27	90.67
内訳	職員 (人)	0.75	0.75	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		6,294	6,294	6,267	6,195
フルコスト (A+B)		9,819	9,598	9,159	7,696

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	②:若干遅れている 想定していたよりも除却協力員の活動回数が少なかったため。	③:遅れている 想定していたよりも除却協力員の活動回数が少なかったためです。	②:若干遅れている 違反広告物の減少並びに団体の合併による団体数及び活動回数の減少によるものです。	③:遅れている 違反広告の掲出減少及び、協力員の増加はあったものの新規団体の応募がなかったためです。
	主な取組と成果	中心街すっきりさわやかクリーンキャンペーン(6月2日)、さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン(12月15日)などで立看板10基、はり札91枚、はり紙1,692枚除去し、市街地の美観を保つことができた。	除却協力員の活動回数は減少しましたが、除却協力団体数は昨年度数を維持できました。さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン(12月13日)などで立看板61基、はり札255枚、はり紙2,449枚を除去し、市街地の美観を保つことができました。	除却協力員の活動回数は減少しましたが、除却協力団体数は昨年度数を概ね維持できました。さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン(12月19日)などで立看板8基、はり札213枚、はり紙806枚を除去し、市街地の美観を保つことができました。	除却協力員の活動回数は減少しましたが、除却協力団体数は昨年度数を概ね維持できました。さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン(12月18日)などで立看板2基、はり札224枚、はり紙341枚を除去し、市街地の美観を保つことができました。
検証結果		B:おおむね成果があがった 平成21年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の増大に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の充実に取り組みます。	必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の充実に取り組みます。	まちの美観を保つための市民と市の協働による取り組みであり、目的や効果には大きな意味があります。今後も活動を継続する団体の充実に取り組む必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	花のふれあいスポット推進事業		
事業担当	土木部 土木補修課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：自治会等各種団体、個人】		
目的・目標		事業の概要	
地域住民の理解と協力により、道路残地などを活用した緑化を推進し、併せて道路環境に対する意識の高揚を図り、市民が緑豊かな空間の中で暮らしています。		道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間を形成するため、市民が道路残地などに植栽する草花を提供します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	草花等提供量				単位	本
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	900	950	1000	1050		
	実績	1554	1490	1720	2475		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	市民による緑化協力箇所数				単位	か所
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2	3	4	5		
	実績	3	3	4	6		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	市民との協働による道路沿いの緑化であり、道路愛護意識の向上が図られる上で必要な事業です。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	市民との協働による道路沿いの緑化により、道路愛護意識の向上や、市民満足度が増すなどの有効性がある事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	市民との協働による道路沿いの緑化により、道路愛護意識の向上が図られる、妥当性のある事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 ■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	市民との協働により、維持管理費の削減など、効率化も図られる事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		苗木の配布、除草など	苗木の配布、除草など	苗木の配布、除草など	草花等の提供
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	133	121	155	170
事業費 (A)		133	121	155	170
執行率 (%)		66.50	57.35	69.82	99.75
内訳	職員 (人)	0.30	0.30	0.50	0.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,518	2,518	4,178	2,478
フルコスト (A+B)		2,651	2,639	4,333	2,648

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
		-	-	-	-
主な取組と成果		宝町商店会、八幡商店会、平塚農業高校の3団体に苗木を提供し、道路沿いの緑化が図られた。さらに、平成12年度からの協力団体である平塚農業高校が第19回「みどりの愛護」功労者国土大臣表彰を受賞した。	平成19年度と同様、宝町商店会、八幡商店会、平塚農業高校の3団体に苗木を提供し、道路沿いの緑化が継続的に図られました。	平成20年度までの宝町商店会、八幡地区町内福祉村運営協議会、平塚農業高校のほか、相模小学校にも提供し、道路沿いの緑化が図られました。	宝町商店会、八幡地区町内福祉村運営協議会、平塚農業高校、相模小学校のほかに、西海岸商店街、日向岡地域ボランティアにも提供し、道路沿いの緑化が図られました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		市民との協働による道路の維持管理は、今後必要性が増すと考える。今後は、市民の協働の意識啓発と協働要望に応えられる仕組み作りが必要。 (例: 花を植えたいとの要望等に対し、道路残地、公園敷地などを一括的に整理し、市民に提案できるメニューの作成など。)	市民との協働による道路の維持管理は、今後必要性が増大と考えます。今後は、市民の協働への意識啓発や協働要望に応えられる仕組み作りを市全体として整備していくことが必要と考えます。 (例: 花を植えたい要望等に対し、道路残地、公園敷地などを一括的に整理し、市民に提案できるメニューの検討など)	市民との協働による道路の維持管理の必要性は今後増大していくと考えます。また、市民側も自治会や比較的大きな組織ではなく、友達同士のような小さな組織などさまざまな形によることが想定され、昨年同様、市民の協働への意識啓発や協働要望に応えられる仕組み作りを市全体として整備していくことが必要と考えます。	市民との協働によるこの事業は、継続性を重視しながら、自治会等による比較的大きな組織だけではなく、友達同士のような小さな組織なども視野に入れ、協働への意識啓発、協働要望に応えられる仕組み作りを市全体として整備していくことが必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	生活道路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
道路整備により、生活環境の安全性・利便性の向上を図り、市民が快適に暮らしています。		車両のすれ違いや歩行者の安全性を確保するため、道路の拡幅や歩道・隅切りの整備など道路を改良します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	生活道路整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成28年度までの整備累計(2,082m)に対する当該年度までの整備累計の率(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	14 18		
成果指標②	指標名	3か年の道路整備進捗率(計画総延長2,400m)				単位	%
	説明・算定式	H19年度:道路整備33%、H20年度:道路整備52%、H21年度:道路整備15%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	33 75	85 100	100 130	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が実施主体となり、市民ニーズに対応するため、道路改良を行う。生活道路を整備することで、快適な生活環境が図れることから必要性は高いと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路を拡幅することにより、交通の利便性を図り生活環境の有効性を高める必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低 	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) ■ その他 	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活に欠かせない道路整備であり、安全で快適な生活環境の確保が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 中 ○ 低 	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> 道路整備のコスト削減に取り組めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高 ● 中 ○ 低 	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		用地買収・道路整備	用地買収・道路整備	用地買収・道路整備	工事、用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	17,633	8,238	18,481
	起債	0	0	13,000	12,000
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	171,792	124,020	106,457	63,967
事業費 (A)		171,792	141,653	127,695	94,448
執行率 (%)		104.96	80.34	72.42	95.25
内訳	職員 (人)	2.65	2.90	2.50	2.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		22,237	24,334	20,890	20,648
フルコスト (A+B)		194,029	165,987	148,585	115,096

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	徳延6号線、土屋57号線、大神85号線、長持56号線、横内15号線、四之宮5号線、土屋69号線を整備し、南金目65号線の局部改修を行うことにより、生活環境の安全性・利便性の向上を図った。	四之宮4・5号線、西八幡17号線、長持56号線、下島12号線、片岡15号線、城所6号線、土屋69号線、片岡22号線を整備し、生活環境の安全性・利便性の向上を図りました。	東真土36号線、城所6号線、長持56号線、下島12号線、片岡15号線、土屋24号線、土屋69号線、千須谷1号線その他、歩行者の安全確保のため、緊急性を要する路線を整備し、生活環境の安全性・利便性の向上を図りました。	片岡15号線、城所6号線、下島12号線、土屋69号線、土屋24号線、千須谷1号線その他、歩行者の安全確保のため、緊急性を要する路線を整備し、生活環境の安全性・利便性の向上を図りました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		地域住民からの整備要望箇所であり、地域の方々の協力を得て事業を進めるが、整備計画については優先順位を定め対応する。	生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進めます。	生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進めます。	生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	交差点改良事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
右折帯を設置することにより、交通渋滞の緩和が図られ、騒音などが低減され、市民が快適に暮らしています。		交通渋滞の解消や事故防止のため、車両がスムーズに交差点を通過できるよう右折帯を設置します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	交差点改良進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成28年度までの指数累計に対する当該年度までの指数累計の率。測量10、用地・補償40、工事50(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	23 23		
成果指標②	指標名	3か年の交差点改良進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19年度:交差点改良工事45%、H20年度:用地測量10%、H21年度:用地買収45%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	45 45	55 55	100 100	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) ■ その他 	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	交差点を改良し右折帯を設置することは、交通渋滞の解消や事故防止のため、必要性は高いと考えます。 右折帯を設置することにより、交通の利便性を図り、生活環境の有効性を高める必要があります。 市民生活に欠かせない道路整備であり、安全で快適な生活環境の確保が必要です。 道路整備のコスト削減に取り組めます。

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		交差点改良工事	用地測量	用地買収・測量	工事、補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	49,984
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	12,000	27,100
	その他 特財	0	0	0	62,302
	一般財源	32,174	32,049	38,433	23,447
事業費 (A)		32,174	32,049	50,433	162,833
執行率 (%)		103.79	1,430.76	55.63	70.83
内訳	職員 (人)	0.45	0.80	1.30	1.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		3,776	6,713	10,863	10,737
フルコスト (A+B)		35,950	38,762	61,296	173,570

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
		-	-	-	-
主な取組と成果		真土・金目線（西沖田交差点）の改良工事を行うことにより、交通渋滞の緩和が図られた。	真土・金目線（西沖田交差点）の改良工事を行うことにより、交通渋滞の緩和を図りました。また同線の高砂交差点改良工事に伴う測量調査設計を行いました。	吉沢・土屋線の用地買収、物件移転補償や、座禅川橋詳細設計委託を行いました。	吉沢・土屋線の用地買収、物件移転補償と、改良工事の一部を行いました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		警察等と協議を行ない、改良が必要な交差点の優先順位を定める。	警察等と協議を行い、改良が必要な交差点の優先順位を定め、整備を行います。	警察等と協議を行い、改良が必要な交差点の優先順位を定め、整備を行います。	警察等と協議を行い、改良が必要な交差点の優先順位を定め、整備を行います。

1. 事業の位置付け

事務事業名	狭あい橋りょう整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
狭あい橋りょうが拡幅され、周辺の交通の利便性と市民の安全確保が図られています。		橋の部分だけが狭く通行に支障を来している道路を改善するため、狭あい橋りょうを架け替えます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	橋りょう整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成28年度までの指数累計に対する当該年度までの指数累計の率 下吉沢2号橋(用地買収20、下部工40、上部工40)、下之宮橋、立堀橋(詳細設計20、下部工40、上部工40)(H22年度か					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	8 8		
成果指標②	指標名	3か年の橋りょう整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19年度:調査設計20%、H21年度:下部工築造工事80%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	20 20	100 20	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	狭あい橋を整備することで安全性が保たれ、快適な生活環境が図れることから、必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	歩行者に対する安全の確保や、車両の通行の円滑化が図れ、有効性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	安全で快適な生活環境の確保から、妥当性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	橋りょう整備のコスト削減に取り組みます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	調査設計	狭あい橋補修計画策定	用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	2,910	7,877	0
事業費 (A)		0	2,910	7,877	0
執行率 (%)		0.00	92.38	27.45	0.00
内訳	職員 (人)	0.00	0.40	0.70	0.70
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	3,357	5,850	5,782
フルコスト (A+B)		0	6,267	13,727	5,782

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	①:予定どおり	③:遅れている	①:予定どおり
		—	—	占用工事において、占用事業者等との調整に不測の日数を要したため。	—
主な取組と成果		平成20年度に予定している、下吉沢2号橋の調査設計委託のための準備を行った。	下吉沢2号橋の測量調査設計委託を行いました。	下吉沢2号橋の詳細設計委託や、狭あい橋補修計画策定委託を行いました。	下吉沢2号橋の改修に伴う用地買収と物件移転補償を行いました。
検証結果		—	A:成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		地域住民からの整備要望箇所であり、地域の方々の協力を得て事業を進めるが、整備計画については優先順位を定め対応する。	狭あい橋の改修を進めるにあたり現橋の状況(車道幅員、歩道の有無等)、地域の利用特性、整備効果等から各橋の最も適切な整備方針を策定します。	狭あい橋の改修を進めるにあたり現橋の状況(車道幅員、歩道の有無等)、地域の利用特性、整備効果等から各橋の最も適切な整備方針を策定します。	狭あい橋の改修を進めるにあたり現橋の状況(車道幅員、歩道の有無等)、地域の利用特性、整備効果等から各橋の最も適切な整備方針を策定します。

1. 事業の位置付け

事務事業名	歩道設置事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
歩道を整備することにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化が図られています。		歩行者に対する安全の確保や車両通行の円滑化のため、主要幹線道路に歩道を新設します。また、段差のない歩道にします。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	歩道整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成28年度までの整備累計(1,625m)に対する当該年度までの整備累計の率(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	21 21		
成果指標②	指標名	3か年の用地買収進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19年度:用地買収6%、H20年度:用地買収46%、H21年度:用地買収・歩道整備48%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	6 7	52 28	100 100	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	歩道を整備することで安全性が保たれ、快適な生活環境が図れることから、必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	歩行者に対する安全の確保や、車両の通行の円滑化が図れ、有効性は高いと考えます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	安全で快適な生活環境の確保には歩車道分離が有効であり、妥当性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	交通量の多い幹線道路に歩道を設置することにより交通の円滑化と安全性が確保され、交通体系の効率化が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		用地買収	用地買収	用地買収、歩道整備	歩道整備、用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	39,676	720	84,139	69,630
	県支出金	0	0	0	0
	起債	14,300	260	51,000	98,000
	その他 特財	0	0	40,733	92,260
	一般財源	65,791	28,501	94,066	32,132
事業費 (A)		119,767	29,481	269,938	292,022
執行率 (%)		131.35	19.22	130.30	99.11
内訳	職員 (人)	1.05	1.10	1.10	1.10
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		8,811	9,231	9,192	9,085
フルコスト (A+B)		128,578	38,712	279,130	301,107

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている 地権者との用地買収交渉が難航した。	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	浅間町・南原線の用地買収及び物件移転補償、及び寺田縄・飯島線の測量調査委託を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化に向けた事業進捗はかった。	浅間町・南原線、寺田縄・飯島線の用地買収及び物件移転補償を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化を図りました。	浅間町・南原線、寺田縄・飯島線の用地買収・物件移転補償や、浅間町・南原線の歩道設置工事を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化を図りました。	浅間町・南原線、寺田縄・飯島線、山下9号線の用地買収・物件移転補償や、各路線の歩道設置工事を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化を図りました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	C: 十分に成果をあげることができなかった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行う。	歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行います。	歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行います。	歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行います。

1. 事業の位置付け

事務事業名	コミュニティ道路整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
蓋架けした排水路の上部を利用し、潤いと安らぎのある生活空間として整備することにより、市民が快適に暮らしています。		市民の憩いの場や交流の場として公共用地を有効利用するため、蓋架けしてある排水路の上部をコミュニティ道路として整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	コミュニティ道路整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成28年度までの整備累計(1,068m)に対する当該年度までの整備累計の率(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	22 22		
成果指標②	指標名	3か年の道路整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19年度:道路整備27%、H20年度:道路整備44%、H21年度:道路整備29%(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	27 48	71 85	100 100	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	排水路の上部を有効活用しコミュニティ道路として整備することは、市民の快適な生活環境が図られることから必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 □ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	排水路の上部を利用したコミュニティ道路は、土地の有効活用が図られることから有効性は高いと考えます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	安全で快適な生活環境の確保から妥当性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 ■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) ■ その他 	地域住民とのワークショップ等により、理想的な道路整備が図られ効率性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		歌川排水路上部整備	歌川排水路上部整備	歌川排水路上部整備	工事、補償
財源内訳	国庫支出金	0	2,750	19,700	62,937
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	3,000
	その他 特財	0	0	12,551	4,232
	一般財源	13,760	32,779	11,649	3,300
事業費 (A)		13,760	35,529	43,900	73,469
執行率 (%)		32.76	79.93	104.52	86.84
内訳	職員 (人)	0.85	0.90	0.70	0.70
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	7,552	5,850	5,782
フルコスト (A+B)		20,893	43,081	49,750	79,251

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	田村131号線（歌川分流排水路）の暗渠化整備を行うことにより、潤いと安らぎのある生活空間を創出できた	中原21号線外2路線（谷川排水路）の測量調査設計、田村131号線（歌川分流排水路）整備工事及び測量調査設計を行いました。	中原21号線外2路線（谷川排水路）及び田村131号線（歌川分流排水路）の整備工事を行いました。	田村131号線（歌川分流排水路）、長持56号線（入野排水路）及び中原21、22号線（谷川排水路）の整備工事を行いました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		地域住民と連携した道づくりが必要であり、関係団体との協議を進めながら取り組む。	地域住民と連携した道づくりが必要であり、今後も引き続き関係団体との協議を進めながら取り組めます。	地域住民と連携した道づくりが必要であり、今後も引き続き関係団体との協議を進めながら取り組めます。	地域住民と連携した道づくりが必要であり、今後も引き続き関係団体との協議を進めながら取り組めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	農業集落排水整備事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	地域再生法		
対象・受益者	市民	事業期間	2004年～2015年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
農業集落排水区域内市民の、水洗化による衛生的な生活環境の向上が図れています。		河川の水質保全や公衆衛生の向上のため、西部丘陵地域（土屋・吉沢地区）の下水道（污水）を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	単位			
	説明・算定式				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	目標 実績				
活動指標②	指標名	単位			
	説明・算定式				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	目標 実績				
成果指標①	指標名	集落排水進捗率	単位 %		
	説明・算定式	全体延長36,696m。H21まで：16,713m、H22：4,485m、H23：2,715m、H24：3,062m（H22年度から設定）			
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	目標 実績	— —	— —	— —	57 59
成果指標②	指標名	集落排水進捗率	単位 %		
	説明・算定式	全体延長36,696m H21まで：16,713m、H22：4,485m、H23：2,715m、H24：3,062m（H21年度まで評価）			
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	目標 実績	26 23	38 38	48 45.8	— —

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	農村地域における資源循環の推進を図りつつ農業用排水の水質保全により農村の生活環境の改善を図ります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	農業集落における生活排水を処理する施設を設置することにより県条例に定める水質を確保できます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	地域再生法に基づく交付金（5/10）とともに県補助金（1/10）を受け、整備費の一部を受益者から徴収します。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input type="checkbox"/> その他	経済性や事業効果等を検討し、合併処理浄化槽事業との整合を図ります。	○ 高 ● 中 ○ 低

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		管渠築造工事	管渠築造工事・処理場 整備・用地買収	管渠築造工事・処理場 整備	管渠築造工事、処理場 整備
財源内訳	国庫支出金	240,025	261,000	303,000	290,000
	県支出金	46,505	52,200	60,600	58,000
	起債	185,500	226,900	389,500	261,600
	その他 特財	0	8,300	16,341	50,903
	一般財源	2,315	12,952	22,809	1,239
事業費 (A)		474,345	561,352	792,250	661,742
執行率 (%)		76.20	84.81	119.01	92.93
内訳	職員 (人)	3.60	3.60	4.40	4.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		30,208	30,208	36,767	36,340
フルコスト (A+B)		504,553	591,560	829,017	698,082

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	②:若干遅れている 現況地形より管渠の位置が深く、施工費がかさんだため	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	土屋地区だけでなく、吉沢地区の管路築造工事にも着手した。	土屋、吉沢地区の管渠築造工事だけでなく、土屋汚水処理施設の建設にも着手しました。	土屋浄化センターの建設が完了し、土屋第1期地区の供用開始が出来ることになりました。	吉沢浄化センター(処理施設)の建設に着手し、管路の整備も順調に進めることができました。
検証結果		B:おおむね成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		今後の管渠埋設においては、農道の改修を含め、埋設位置を確保しながら施工しなければならない箇所が出てくる。	今後の管渠埋設においては、道路の拡幅整備を行いながら施工しなければならない箇所が出てきます。	今後の管渠埋設においては、道路の拡幅整備を行いながら施工しなければならない箇所が出てきます。	今後の管渠埋設においては、道路の拡幅整備を行いながら施工しなければならない箇所が出てきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公共下水道合流改善事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法施行令の一部を改正する政令		
対象・受益者	市民	事業期間	2001年～2013年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
合流式公共下水道区域から大雨の際に河川へ放流される未処理水を削減することにより、水質汚濁防止ができ、区域内市民が快適に暮らしています。		下水道施行令の改正により、平成25年度までに河川放流される水質を分流化並みとし、かつ、放流回数を半減させるため、貯留管などを設けます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
活動指標②	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
成果指標①	指標名	JR東海道線南側合流改善進捗率				単位 %
	説明・算定式	H22:立坑築造工事9%、H23:シールド工事34%、H24:導水管布設54%、H25:揚水施設3% (H22年度から設定)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	— —	— —	— —	9 9	
成果指標②	指標名	JR東海道線南側合流改善進捗率				単位 %
	説明・算定式	H19:シールド工事27%、H20:導水管布設44%、H21:揚水施設築造:29%(H21年度まで評価)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	27 27	71 71	100 100	— —	

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	汚濁負荷量の削減及び公衆衛生上の安全確保、夾雑物除去を行います。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	分流式下水道区域並の放流水質となるため、有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	合流式下水道緊急改善事業として国庫補助金(5/10)を受けています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	合流式下水道区域の完全分流化には、多大な事業費と時間を要するため当面の計画としてJR東海道線南側区域も雨水貯留管による対応とします。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		シールド工事・浸透樹設置	導水管布設工事・浸透樹設置	揚水施設築造工事・浸透樹設置	貯留管築造工事
財源内訳	国庫支出金	353,100	0	231,486	75,000
	県支出金	1,377	0	1,352	0
	起債	342,400	0	331,200	87,800
	その他 特財	0	0	5,355	0
	一般財源	234	623,505	209	1,061
事業費 (A)		697,111	623,505	569,602	163,861
執行率 (%)		140.26	78.00	107.27	30.92
内訳	職員 (人)	2.95	2.95	2.05	2.05
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		24,754	24,754	17,130	16,931
フルコスト (A+B)		721,865	648,259	586,732	180,792

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	馬入雨水貯留管築造工事に着手した。	馬入雨水貯留管揚水施設工事に着手しました。	馬入貯留管揚水施設工事が完成し、JR東海道線北側の合流改善事業が終了しました。	松風町・久領堤貯留管築造工事(シールド工事)に着手しました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		合流改善事業においては、JR東海道線南側の対応を国の動向や昨年の大雨を受けて完全分流化するか雨水貯留管による対応とするのか早期に方向付けをする必要がある。	合流改善事業においては、JR東海道線南側の対応を国の動向や昨年の大雨を受けて貯留管方式による改善とし、国の同意を得て平成25年度末までに完了させます。	合流改善事業においては、JR東海道線南側の合流改善事業を着実に実施し、平成25年度末までに完了させます。	JR東海道線南側の合流改善事業を着実に実施し、事業期間内(平成25年度末)に完了させます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公共下水道整備事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
公共下水道を整備することにより、市民が安全で快適に暮らしています。		河川の水質保全や公衆衛生の向上及び浸水防止のため、市街化区域や市街化調整区域の公共下水道を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	整備面積進捗率(雨水)				単位	%
	説明・算定式	全体整備面積3,550ha(認可面積)。H21まで:2,687ha、H22:23ha、H23:11ha、H24:12ha(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	76.3 76.2		
成果指標②	指標名	汚水整備面積進捗率				単位	%
	説明・算定式	整備面積3141.76ha(H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	92.6 92.7	93.2 93	94.5 94.9	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	浸水区域の解消と公共用水域の水質保全のために必要な事業です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続的に整備を進めて行くことで水質保全と浸水解消が達成されます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	汚水は、受益者から負担金等を徴収しています。雨水は、公費負担となっています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	経済性や事業効果等を検討し、工法や整備箇所を決定しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事
財源内訳	国庫支出金	249,358	185,936	275,638	188,581
	県支出金	900	856	895	802
	起債	555,700	469,100	759,600	812,600
	その他 特財	0	19,239	64,210	93,472
	一般財源	250,279	54,198	7,943	5,580
事業費 (A)		1,056,237	729,329	1,108,286	1,101,035
執行率 (%)		145.65	76.85	75.42	66.00
内訳	職員 (人)	3.50	3.50	5.25	5.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		29,369	29,369	43,869	43,360
フルコスト (A+B)		1,085,606	758,698	1,152,155	1,144,395

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
		-	-	-	-
主な取組と成果		市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を始めた。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事にも着手した。	市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を進めました。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事にも着手しました。	市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を進めました。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事も完了しました。	浸水区域を解消するため、雨水管の整備を実施しました。また、市街化区域で未整備となっている富士見町地区などの雨水管の整備も進めました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		雨水整備を進めているが、河川水位上昇の影響により雨水が排除できない状況になっている。	雨水整備を進めていますが、県が管理している河川の水位上昇による影響で内水が排除できない地域があります。	雨水整備を進めていますが、県が管理している河川の水位上昇による影響で内水が排除できない地域があります。	雨水整備を進めていますが、県が管理している河川の水位上昇による影響で内水が排除できない地域があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	東部ポンプ場改修事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法		
対象・受益者	市民	事業期間	～ 2011 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
東部ポンプ場を改修することにより、合流区域内の市民が安全で快適に暮らしています。		機能確保と環境改善のため、2基の雨水ポンプエンジンを電動化します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
活動指標②	指標名					単位
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績					
成果指標①	指標名	ポンプ場改修進捗率				単位 %
	説明・算定式	平成23年度を100%とした雨水ポンプ改修進捗率。H21まで：46%、H22：1基のポンプを電動化27%、H23：1基のポンプを電動化27%（H22年度から設定）				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	— —	— —	— —	73 73	
成果指標②	指標名	ポンプ場改修進捗率				単位 %
	説明・算定式	平成22年度を100%とした雨水ポンプ改修進捗率 H18年度まで：13%、H19：5%、H20：28%、H21：27%、H22：27%（H21年度まで評価）				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標 実績	18 18	46 46	73 46	— —	

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市の施設である公共下水道ポンプ場が騒音等の不適合であり、周辺住民対策として可能な限り早急に完了する必要があります。また、浸水対策として非常用発電機の設置位置を変更しました。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	法の遵守及び周辺住民対策として有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	供用開始後36年経過した施設であり、騒音規制などの不適合が無くても改築の時期に達しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input type="checkbox"/> その他	不適合解消のため継続事業として実施しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		汚水流出ゲート改修・非常用発電機設置工事	汚水流出ゲート改修・非常用発電機設置工事	雨水ポンプ電動機設置工事に向けた検討	雨水ポンプ電動機設置工事
財源内訳	国庫支出金	24,950	0	0	34,600
	県支出金	57	0	0	186
	起債	25,400	0	0	52,900
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	93	328,996	0	94
事業費 (A)		50,500	328,996	0	87,780
執行率 (%)		90.99	85.37	0.00	87.78
内訳	職員 (人)	0.25	0.25	0.40	0.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,098	2,098	3,343	3,304
フルコスト (A+B)		52,598	331,094	3,343	91,084

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	③: 遅れている 浸水により運転停止となったことを受け検討案を策定したため、事業を1年遅らせました。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	機械の設計及び製作を行い、翌年度の設置に向けた準備を行った。	東部ポンプ場周辺環境対策のため非常用発電機及び周辺機器の更新を行うとともに、併せて浸水対策を図りました。	浸水対策の検討を行いました。	東部ポンプ場の建設に着手し、1基のポンプを電動式に改修することができました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	C: 十分に成果をあげることができなかった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		H19年7月の冠水を教訓に、電気・機械設備の耐水性の向上について可能な措置を講じる必要がある。	H19年7月の冠水を受けて、電気・機械設備の耐水性向上に努めます。	老朽化した施設の改善計画を策定する必要があります。	施設(建物など)の改築計画を立てる時期にきています。